

◎予防接種の経費

予防接種事業

【 市民健康課 】

【総合計画上の位置づけ】

健やかで心豊かに暮らせるまち

健康福祉:すべての市民が健康で安心して生活を送ることのできる環境が整っているまち

【事業の目的】

対象 市内在住の乳幼児等

意図 感染症の発生、まん延を予防するため。

効果 抵抗力をつけ、感染症の流行を抑え、また重症化を防止する。

【事業の内容】

(1) 予防接種事業

- ・ 集団接種(ポリオ)、個別接種(BCG、MR、麻しん、風しん、三種混合、二種混合、日本脳炎、インフルエンザ(65歳以上))を実施した。

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
210,131	216,192	194,523		21,669

主な支出内訳

・ 予防接種事業

ポリオ集団接種受付事務等賃金	1,047
予防接種ワクチン等医薬材料費	76,491
予防接種等委託料	112,886
ポリオ医師派遣委託料	2,309
予防接種費用自己負担金補助金	293

予防接種ごとの接種人数

予防接種名	接種人数
DPT三種混合(一期初回)	3,814 人
DPT三種混合(一期追加)	1,243 人
DT二種混合	1,013 人
ポリオ(急性灰白髄炎)	2,519 人
日本脳炎	2,009 人
MR混合(麻しん・風しん)	4,380 人
麻しん 単抗原	10 人
風しん 単抗原	4 人
BCG	1,162 人
インフルエンザ(65歳以上)	23,228 人
合計	39,382 人

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 健福-37 予防接種事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	0099 予防接種事業					
主管課	市民健康課	関連課	学務課				
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	感染症の発生予防、予防接種率の向上						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	194,523千円	162,708千円	147,754千円	平成20年度		
	(国・県)	0千円	0千円	0千円	対象者(接種者)(人)		
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円	ポリオ 2,648(2,519)		
	(一般財源)	194,523千円	162,708千円	147,754千円	三種混合 5,188(5,057)		
	人員配置数	2.5人	2.5人	3.4人	二種混合 1,384(1,013)		
	人 件 費	23,413千円	23,363千円	31,888千円	BCG 1,297(1,162)		
	協働の パートナー	医師会、医療機関、保健福祉事務所	医師会、医療機関、保健福祉事務所	医師会、医療機関、保健福祉事務所	MR 5,489(4,380)		
事務事業 運営経費	総事業費	217,936千円	186,071千円	179,642千円	日本脳炎 5,435(2,009)		
	市民1人当 りの経費	1,235円	1,058円	1,026円	インフルエンザ 46,470(23,228)		
	対象者1人 当りの経費	5,534円	5,594円	5,709円	計 67,911(39,382)		
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
麻しん風しん予防接種 接種率の向上	△	目標値	100	100	90		
		実績値	81.7	79.8			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
その他の乳幼児予防接種 率(日本脳炎を除く)の向上	△	目標値	100	100	100		
		実績値	89.6	88.4			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・日本脳炎予防接種は、平成17年5月から厚生労働省の勧告により接種勧奨中止になり、新ワクチン完成は平成21年度以降とされていた。 ・20年度から5年間に限り、「麻しん排除計画」としてMR予防接種対象者として1歳児、年長児に加え、中学校1年生、高校3年生も加わったが、中学校1年生・高校3年生は習い事やクラブ等で接種率が低迷することが予想された。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・研修会への参加・ワクチン製造販売業者への問い合わせなど、日本脳炎をはじめとする予防接種について、積極的に情報収集に努めた。日本脳炎の新ワクチンの使用開始は平成21年6月2日からと厚生労働省から情報が示された。 ・MR予防接種対象者には、4月に一括で個人通知を送付するとともに、毎月の転入者への通知も行った。 ・小・中学校長会・幼稚園長会で麻しん予防接種の必要性を説明し、理解をもらい、学校及び幼稚園からも接種勧奨してもらうようにした。 ・広報・衛生時報などで、MR予防接種の必要性を周知した。 (掲載月→広報:20年4月・9月/衛生時報:20年3月・11月・21年2月) ・各予防接種の対象者で未接種の者に対して、未接種者通知を行った。DT二種混合の接種率が大幅に上昇した。(通知月→MR2、3、4期:11月/MR1期・DT二種混合・BCG:毎月)
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・MR予防接種対象者のうち、中学校1年生・高校3年生の接種率がそれぞれ約80%・70%で、目標(100%)に及ばなかった。 ・日本脳炎予防接種については、接種希望者がスムーズに接種できる体制を整える必要がある。
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・日本脳炎予防接種については、引き続き、国、県、ワクチン製造販売業者から情報の収集に努めると同時に、早期に新ワクチン接種希望者がスムーズに接種できるよう体制を整える。 ・MR予防接種対象者である中学校1年生・高校3年生への個人通知を4月1日に行い、春休み中に接種できるようにする。 ・平成20年度MR予防接種率の集計結果を各幼稚園、小中学校に公表し、さらに引き続き平成21年度も接種勧奨してもらうよう依頼する。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	効果的な接種勧奨を行い、接種率の向上を図る。 日本脳炎予防接種の新ワクチン使用開始などに伴い、すばやい対応を行う。		
担当課長氏名:	市民健康課長 相川 誉夫		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	予防接種履歴のデータを効率的に利用し、さらなる接種勧奨に努める。		
担当部名	健康福祉部	部長名	石井 和子